

フジ：サージタンクは中にあるのか。

回答：外にある。原子炉建屋にはない。

NHK ()：4号機の使用済燃料プールへの淡水の注入は既に始まっているのか。

回答：準備中で、淡水の注入はまだである。

ANN ()：昨夜、Puが土壌で検出されたが、その後の情報はあるのか。他の核種などのちがいなどないのか。見つかったことの見解をもう一度、聞かせてほしい。

回答：Puについては、かなり高温になって発生するもの。重さもあるので、燃料の損傷があったことが分かった。

しかも、閉じ込めることが本来の姿であるが、今回の事故の重大性から深刻であることを表している。

健康被害は特に心配する値でないが、しっかりモニタリングを行っている。

ANN：Puと他の核種との違いは、β線とγ線と、さらに重さということか。

回答：その理解でいい。

AP ()：Puが検出されたということだが、燃料のダメージはどのくらいか。

もう一つ、炉水の水位が上がっていないことで、溜まり水が出来ることの見込みは出来なかったのか。溜まり水への対策は取れなかったのか。今まで放置してきたのか。

回答：Puの検出は、炉への損傷は直接分からない。燃料が高温になったので、ある程度の損傷はあるものの、何%までかは分からない。

溜まり水の見込みについては、まずはそういう事態になった燃料をしっかり冷やしていくことを精一杯やってきた。その副作用として出てきた。いろいろ考えていたが、誰がやったとしても可能性はこれ以外の方法しかなかったと思っている。

日刊工業 ()：トレンチについては水質などで出所の判明はどのような予定か。

回答：えいいやっている。それによって溜まり水の関係が分かってくる。

日刊工業：いつ分かるのか。

回答：1号機の水位が上がっているのを先に判明する。2、3号機は水位の変化はないので、分からない。

時事 ()：海水のモニタリングの速報があれば教えてほしい。

回答(放射線班)：南放水口で10800。8時、ヨウ素275。1時、ヨウ素250。

〇〇：時間は午前、午後のどちらか。

回答（放射線班）：27日15時。北放水口で、ヨウ素1150。

時事：海水モニタリングで新しいデータのことを教えてほしい。

回答（放射線班）：28日8：20、南放水口でヨウ素33.9。その後も14：20で27.9。

福島第一：5、6号の北側について、昨日から8：40で860。14：40で665.8。2号機の北では29日9：35、95.6。

福島第二：岩沢海岸で昨日8時、58.8。少々上がっている。

時事：拡散しているとの認識でいいのか。

回答（放射線班）：沖合の海流が南に流れている。高い値が下がって。拡散はドーナツ状になっている。

時事：減っていることは、ある程度は止まっていることか。

回答（放射線班）：断言出来ないが、減っている。

〇〇：トレンチの水位は今朝見たのか。

回答：見えていると思う。どのような状態かは、今は分からない。

〇〇：最後の海水モニタリングは福島第二なのか。

回答：そう。

以上

日時：平成23年3月29日(火) 17:44~18:40
場所：保安院第4会議室
対応：西山審議官

(説明)

【今日の福島第一原子力発電所の状況】

(1号機)

- ・圧力容器への淡水の注入について、仮設の電動ポンプで行っている。切り替えて133リットル/秒で実施しており、圧力容器の圧力は下降している。29日に4時現在：333.3℃。9時：309.6度。13時：213.4℃。しっかり見て行く。
- ・溜まり水については、3台のポンプで移送している。現在、現場へ状況確認に行けていないので、はっきりした成果はわかっていない。

(2号機)

- ・流量を少し絞っており、復水ポンプの温度が少し上がっている。様々な要因を最小限にとどめるために流量を絞っている。
- ・溜まり水について、復水貯蔵タンクからサージタンクへ移送は16:45から開始されたと聞いている。
- ・使用済燃料プールの淡水への切り替えについて、結果はまだ聞いている。

(3号機)

- ・使用済燃料プールへの淡水の放水は14:17から開始され、4時間行われる。
- ・溜まり水については、28日17:40からサージタンクへの移送は既に始めていた。サージタンクへの移送が終了したら、復水器から復水貯蔵タンクへの水の移送が行われる。

(4号機)

- ・既に連絡したが、中央制御室に電灯が点灯した。

(トレンチ)

- ・1号機の復水器の周りに土のうを置いた。午前8時頃行った。土のうのイメージについては、地下鉄の入口に土のうを積むようなもの。
- ・トレンチ内の水の核種分析については、1号機から採取し、近々まとまり次第報告したい。
- ・2号機は線量が高いため、サンプリング方法について検討している。

- ・ 3号機は瓦礫等があるため、どう測定するのかを検討している。
(作業員が水を被ったこと)
- ・ 3人の作業員が残留熱除去系配管を取り換え中に配管からの水を全身に被った。水を被った作業員は協力会社で、シャワーにより除染したことにより、被ばくはなかったことを報告する。

以上

(本日の会見は本日までです。質疑については40分間行います。)

(質疑)

毎日 (): 溜まり水は収容しきれの見通しはあるのか。

回答：いろいろある。この他にも器になるものも可能であり、急ごしらえもあるし、外にもあるかもしれない。容量の確保において様々なことを考える。

毎日：溜まり水を収容できると考えているのか。

回答：その通り。

毎日：1号機のタンクと容量から排水のメドは立てているのか。

回答：いつ実現できるのかは分からないが期待したい。

毎日：溜まり水の容量は分かっているのか。

回答：分からない。

読売 (): 先ほどのことに関連して、西山さんが、3号機についてはサージタンクへの移送が既に始めていたということについて、その意味合いについて、西山さんか、保安院のどちらが知らなかったということなのか。

回答：私が説明を受けた時に、メモには移送中と書いていたが、発言では言えてなかった。

読売：東電が移送方法について立案して、保安院へ説明したのはいつか。タービン建屋の溜まり水について、昨日、東電は全力で検討していると言っていたが、保安院としては東電の移送方法については、いつ承認したのか。

回答：確認します。

読売：即答いただけないのか。そのことについて疑念を感じる。

回答：統合本部で作戦を練っており、その場で保安院と一緒に立ち会い、決定している。場合によっては情報が届いていない。

読売：統合本部内では、その方法についての妥当性を評価しているのか。

回答：そうです。

読売：溜まり水の容量もよくわかっていないのに、この方法ができなかった場合のオプションはあるのか。

回答：関係者内で議論が行われ、1号機、3号機の移送が開始された。この方

法以上のものはない。

読売：移送作戦は今のものでいくしかないのか。

回答：そうです。

読売：その作戦がうまくいかないと次の方法を考えるのか。

回答：そうです。

NHK ()：サージタンクの容量は合わせて9000m³。ポンプ1台あたりの能力はどのくらいか。

回答：確認します。

NHK：時間はいつまでに終わるのか。

回答：わからない。

NHK：ポンプの台数は。

回答：わからない。

〇〇：作業員が水を被ったことについて詳しく聞かせてください。

回答：残留熱除去系に仮設ポンプ取り換える際に配管に繋ぐボルト切断中に配管に残っていた海水を全身に被った。被った時間は12:03。作業員はタイベックスーツを着用していた。作業員は作業者が集まる「免震総合棟」に移動し、シャワーを浴び、手や足を洗い、測定を行ったが内部被ばくはなかった。

〇〇：被った水は単なる海水だったのか。

回答：そうです。

〇〇：測定を継続してもなかったのか。

回答：なかった。

〇〇：溜まり水やトレンチの水もまた移送するのか。その終了するメドはあるのか。外部へ移送するなどの検討は行われているのか。また、海水への放出は出来ないと思うが、海水への検討もしているのか。

回答：現時点での特定の場所への移送はない。いろいろな選択があって検討が行われ、今のベストを申し上げている。外に出すことについて検討していない。

〇〇：トレンチの水は収容できるのか。放出はないのか。

回答：ない。

読売 ()：放出についていろいろ見ている。復水器の3000m³の中は空なのか。トレンチの位置から水を収容できるのではないか。

回答：そうかも知れない。確認していない。

読売：トレンチ以外で別なところと繋がっている可能性はないのか。

回答：繋がっていないか考えている。

読売：タービン建屋内の溜まり水について、深さは何センチ、それとも何メー

トルなのか。

回答：くるぶしあたり。その前後の深さ。

読売：何メートルではないのか。

回答：ない。

朝日（ ）：トレンチの水位について、どのように確認しているのか。わかれば教えてほしい。

回答（プラント班）：トレンチの水位については目視で変化を見ている。現在は、余り変化はないと聞いている。

朝日：2号機の圧力容器への注水について水量を絞っているとのことだが、1号機と2号機では設計温度は同じなのか、それとも違うのか。

回答（プラント班）：1号機と2号機とでは、出力が異なるので設計温度は違う。

朝日：2号機の注水は、どれくらいまで絞っているのか。

回答：117リットル/秒が今のデータ。圧力容器に冷やしたもので、余分な水を入れないということ。

朝日：冷やすことを優先し、しかも間に合わない。それで漏れた水が海に流れてもしょうがないのか。

回答：現時点では考えていない。

日テレ（ ）：確か先週の木曜に伺った時に、漏れないと言ったように記憶したが、現状について聞きたい。

回答：漏れてないことは言っていない。割れているとか、弁の緩みとかで漏れている可能性が十分考えられると言った。

日テレ：俯瞰的な対応はどれだけ出来ているのか。

回答：燃料が損傷したため、これ以上悪化しないように防ぐようにしている。今は保たれているのを維持している。また注水を海水から淡水に変えている。注水が圧力容器、格納容器に溜まっているが、外に漏れることのないようにやっている。

日テレ：トレンチや溜まり水から放射線量が出ている。漏れ出す危険性について先手を打っていることができているのか。不安を持つ。

回答：原子炉を冷やす目的から注水しており、水が漏れていくことはやむを得ない。

ダウンジョーンズ：タービン建屋の溜まり水の水量はわからないのか。

回答：水量について分かっていない。

ダウンジョーンズ：東電はどう言っているのか、必ずしも違うのか。

回答：わからない。がしかし水抜きをやっている。

ダウンジョーンズ：ポンプはどのくらいで、海外から導入するなどの計画はあるのか。

回答：確認します。

読売 ()：溜まり水の深さはくるぶしからとおっしゃったが、東電は、深さ1メートルとか言っていた。水量の想定についてサージタンク入る容量に換算するなどの計画については監査するのか。保安院の立場はどう正して認識は担保できるのか。

回答：そこのところは、数字ははっきりしないが、溜まり水の容量は判断しながら行っている。仮に判断して調整して行く。

厳密に特定することは必ずしも意味はないが、その辺も見極めて行く。

読売：1メートルとかは把握していないことは、タイムラグがどうして出るのか。

回答：私のレベルでは知識がない。1.6トン/時。1日当たり19.5トン。

〇〇：残留熱除去(RHR)の修理は他の号機でも行われているのか。

回答：行われている。

〇〇：修理の用途は。

回答(プラント班)：残留熱除去系の溜まり水は抜いた後で作業する。それが出来たら、実際のモータの点検を行う。

NHK ()：トレンチの線量は急いで取りまとめる。今の現状を説明してください。

回答(放射線班)：サンプリングの情報は来っていないが、結果は今日中になっている。

日テレ：水素爆発があり、ドライベントは最初はやらざるを得なかったが、今はコントロール出来ているのか。

回答(プラント班)：格納容器の圧力については当初は高くなったのでベントをおこなった。今は様子を見ている。水素はどのように出ているのか、どのルートかは分からない。

日テレ：それ以外もあるのか。

回答(プラント班)：格納容器から漏れている可能性は否定できない。

日経：放射線が検出されて作業が継続できないなどで作業員を撤退する想定はあるのか。想定されるのであれば、どのように対処するのか。

回答：ないように対処する。

日経：ないことの想定なのか。

回答：はい。

共同 ()：作業員が水を被ったことについて、下着も濡れたのか。

回答：恐らくそうだと思う。

共同：大事故に成りかねない。対策はどうなのか。

回答：その点は2時過ぎに原安委から事故の原因分析と対策をしっかりとって

くれとあり、保安院は東電に指示した。

共同：現場には東電の職員はいないのか。今回も協力会社だけなのか。

回答：今の情報では持っていない。

共同：東電の職員がいない可能性があれば、保安院としてはよくないのではないか。

回答：東電の職員がいちいち一緒に行くことは疑問。

共同：放射線を管理する人がいないことは問題ではないか。

回答（医療班）：放射線管理について協力会社の作業員にも教育しているので、必ずしも作業現場にいらなくてもいい。ただし、作業中に配管から水が出ると予見する配慮は取りたかったと思う。

朝日（ ）：圧力容器給水ノズルの300℃の影響について考えられることを教えてください。

回答（プラント班）：一般的に熱いと温度差が説明しきれぬのかは、はっきり申し上げられない。

朝日：温度差により悪影響は考えられないのか。

回答（プラント班）：明確な数値で熱伝導の影響で応力は一般的に熱応力である。この状態では炉が悪くなるとは考えられない。

朝日：原子炉が40年経っており、問題はないのか。

回答（プラント班）：熱応力は繰り返しで劣化するもの。高経年化と今回の温度差は考えられない。

朝日：中の様子は分かっているのか。

回答：分かっている。

朝日：今後はロボットの導入など予定はあるのか。

回答：今後は空調が回復し、現場に行けるのではないか。ロボットなどの導入は今の段階でははっきりしていない。

読売（ ）：タービン建屋の溜まり水に対する認識として、ここに配電があって、かなり重要である残留熱除去系の復旧は絶対にやらなければならない。保安院の認識はどうか。

回答：そのことはそうである。

読売：危機的状況は去らないのか。

回答：仮に近づけないとすれば、別な方法を考えていくのか。

読売：放射線量が高く、時間も掛かることから、同時に並行によるオプションもあるのではないか。

回答：おっしゃる通り。関係者もいろいろ考えながらやっていく。

以上

〇〇：本日の会見は最後なのか。データはいつものように出るのか。審議官は
いないので、他の方が会見を行うのか。

回答（広報班）：その通り。次回の会見は明日の朝に行います。

プレスレク概要

(第62報)

日時：平成23年3月30日(水) 10:50~11:45

場所：保安院第4会議室

対応：西山審議官

(説明)

<プラントの状況>

○1号機

- ・圧力容器・格納容器温度について上昇の懸念があったが、28日20時淡水の注入量を増加後下降し、その後温度変化なし。3/30 4:00現在給水ノズルで281℃、圧力容器下部で134℃。
- ・現場の感触としては仮設の電源ポンプに切り替えてからだいぶスムーズになったとのこと。
- ・使用済み燃料プールについて、31日目途に淡水の放水実施予定。
- ・地下溜まり水移送作業について、40cmだったものが今20cmという見方ができる。場所により違うが成果としてそのようなもの。その後新たな流入あるかもしれないので楽観できないが、少しずつ水位減っている。
- ・トレンチ立て杭について、縁から水位が10cmであるが、本日1m下げるべく水を移動させる。移動先は各号機の共用の廃棄物処理建屋目指して移動させようと考えている。10cmだと不安があるので1mまで下げて当面溢れることを回避させる。
- ・昨日、トレンチの開口部をコンクリートパネルで覆い土のうを積むと説明していたが、コンポジットパネルの誤りであり訂正する。
- ・電気設備について、補機、サポートのための様々な機器の健全性確認、タービン建屋照明の変圧器の確認等を継続して行う

○2号機

- ・原子炉温度が上昇傾向。少し注水の流量を増やそうということになったと聞いている。
- ・使用済みプール 冷却系から昨日29日16:30~18:25淡水を初めて注入。仮設の電源駆動ポンプ仮設ディーゼル発電によるもの。
- ・復水移送ポンプからサプレッションプールへ昨日16:45から開始している。たまり水を復水器、復水器の水を復水移送ポンプへ移送。仮設の水中ポンプで10m³/hというスピードでやっている。
- ・電源については、同様に、補機やタービン建屋照明の変圧器調査を実施。

○3号機

- ・炉心パラメーター安定している。
- ・使用済みプールへ淡水昨日14:17~18:18約100t放水が行われた。
- ・たまり水について復水貯蔵タンクの水をサージタンクへ移送を開始。29日17:40~開始25m³/h。仮設ポンプ1台を用いて現在も続いている。
- ・電源設備については、補機の健全性や直流125V重電基盤の確認を行っている。

○4号機

- ・使用済み燃料プール 本日14時頃開始目途コンクリートポンプ車放水予定。

○5、6号機

特に申し上げることない。

<地下水たまり深さ>

- ・1号機のたまり水が状態が一番はっきり分かっている。23日40cmあったものが29日現在約20cmと半分くらいになっている。
- ・2~4号機の水について、場所によって違う、暗くて確認できない、等の理由で詳細不明。オーダーとしては数10cmから1mくらいの深さと聞いている。

<復水器復水貯蔵タンク>サブプレッションプールの容量>

- ・お配りの資料のとおり。
- ・1号機復水器容量1600cm³復水貯蔵タンク1900m³。すでに復水器に水を入れ始めている。復水貯蔵タンク1350m³空いており、すなわち550m³水が入っている。現在復水器自体に水を入れている。
- ・2号機 復水貯蔵タンク容量2500m³。サブプレッションプールに水を移している。1800m³空いており、700m³の水が入っている。
- ・3号機 復水貯蔵タンク容量2500m³で、1000m³の水が入っている。サブプレッションプールのサージタンクに水を移している。
- ・サージタンク水が入っていないと申し上げたが、入っていた。2号機3号機3400m³×2=6800m³のうち3600m³水が入っている。2号3号復水移送機から水の移送が行われている。

<水の数字>

- ・海水モニタリング核種分析の結果について。1F南放水口、これまで1800倍が一番大きな値だったヨウ素131が29日8:20で2572.5倍、29日13:55で3355倍と増えている。北側放水口ヨウ素131がこ

れまで1150倍が最高だったものが8:40で1234.5倍、14:10で1262.5倍となっている。

- ・2Fの海水モニタリング結果ではヨウ素少し下がっている。
- ・海への放射性物質の流れ込みは避けないといけない。基準比がオーダー的には4桁なので原子力安全委員会にも相談しているが、20km避難区域になっており、周辺住民に直ちに影響ない。海水は飲用されないし海中で薄まる、ヨウ素131半減期8日なので、人が海産物を食するまでには相当程度拡散する。その意味で心配ないが、引き続きモニタリング実施し、原因突き止め、これ以上高くなることなるべく食い止めることが重要。
- ・1号機トレンチの水 まだ東京電力でも分析できていない段階だが、我々入手したのでお配りする。
- ・ヨウ素131が5.4ベクレル/cm³ セシウムが0.051ベクレル/cm³。海水分析値と比較してもけた違いに低い。これをどう評価するかについてはお時間いただくが、ヨウ素やセシウムの比率は低い。いろいろな核種が出ているので、他の濃い原子炉由来のものと核種的には共通するものがある、これをどう評価するかが課題。
- ・トレンチたまり水の原因は津波がベースということは考えられる。タービン建屋のたまり水との関係も考えられる。
- ・ただ、1号機の建屋は1階で結ばれているが、溜まり水あるのは地下1階。パイプをつないでいるのは1階。直接たまり水が流入するのは考えにくいのではとの現場の見解。それも踏まえて解析が必要。
- ・屋外の粉じん飛散対策として東電が明日からやろうとしているものを紹介する。1Fの構内では、津波で押し寄せてきたがれきや1、3号水素爆発放射性物質チリとして残っている。これらが空気に舞って飛び散ることを防ぐため、試験的にやってみようということで、ホースのようなもので水溶性の物質を散水する。このために開発されたものではないが、川ののり面や土が飛散しないように撒くものを使ってみようということ。図の右側にある「海域汚染防止対策エリア」で明日から実験してみようということ。まずやってみる。水溶性のものは固まると一定の厚さでくっつくようになるので、ケーブル配管や電気設備があるところでは使えない。比較的広い場所で粉じん抑えた方が良いというところをやってみることを決定した。

(質疑)

Q：(読売新聞)復水タンクの容量の数字以前と少し違うが。

A：今回の値が正しい。

Q：サージタンク3500m³というのが一個消えてしまったが。

A：津波で一個つぶれてしまったようで、当面使えないことがわかった。

Q：これを前提で計算すると、トレンチの水が収まるとは思えないがどうするのか。タンカーに入れる等報道で検討しているとあるがどうなのか。

A：タンカーとか、穴を掘るとか新しいタンクを作るとか検討しているが、とりあえずは現存設備でと考えている。

Q：東電が核種分析のデータを誤ったとき、保安院から口頭指示したが、東電がサージタンクの見積もりを全然違う数字を出している。この点についてまた原子力安全保安院がどこから指導が入る可能性があるのか。1個タンクがあると言っていたのがないとか、空だと言っていたのが水が入っていたとか言っていることが全然違う。

A：タンクが空だというのはこの場で直感で申しあげた。細かい質問あるのでなかなか全部お答えできない。お知らせするためになかなか調査することもできない不正確なことを申し上げることがあるのは申し訳ないと思うが、プライオリティある中、できるだけ正確に多くの情報を提供したい。

Q：(フジテレビ)：海水モニタリング今までで最高というのは大量のものが漏れているということによいのか。

A：原因ははっきりしないが、この値が出る前に雨が降ったとか爆発があったということはないので、これまで出たものが海に流れ込んでいるかと思うが、我々としてもよく見ていかないといけない。トレンチの水を出さないようにしないといけない。

Q：トレンチの水パッと見1桁(1ベクレル/cm³台)だが、原子炉の水と同じと言えるのか。

A：健全な原子炉と同じということか。

Q：はい。この水のレベルが高くないということなら直接海に流してもよいのかということを知りたい。

A：そのようには考えていない。私の感触では、ヨウ素やセシウムは通常の健全な原子炉から出てくるものではない。相当薄まった形ではあるが燃料が少しおかしくなったことに起因するものとする。まだ分析する必要あるが、このまま海に出すことは考えていない。

Q：(産経新聞)：官邸チームで検討しているという報道もあるが、保安院も共有しているのか。水の処理の方法、事故でない通常の場合汚染された水どう処理しているのか。そうした方法今回のような非常事態で使えるのか。

A：統合本部で官邸も保安院も東電もすべての意思決定しながらやっている。特定の深く突っ込んで考えてやらなければならない問題チーム作っていると認識。保安院も東電も官邸もみんな入って一緒にやっている。

通常では、廃棄物処理系でフィルターを使って放射性物質を除去して濃度低減した水を排水、サンプリングして系外に流すということをやっている。今回は電源が十分回復していないので、廃棄物処理系が使えるか確認できていない。回復したら使えるようになるかもしれない。

Q：系外に流すというのは基本的に海に流すということでのよいのか。

A：そのとおり。

Q：(共同通信) 電源喪失が問題となっているが、各電力へ原発の電源確保について指示することを検討しているか。

A：大臣から指示しているとおりに検討しており、まとまり次第発表する。

Q：(NHK) 復水ポンプの水を移す先として説明のあった共用の処理建屋タンクについて、どれくらい容量あるのか。今後継続的に移すことができるのか。

A：共用の廃棄物処理系25000t以上ある。非常に大きい。水が保てるか確認したうえで使いたい。

Q：タンクのような容器があると認識してよいか。

A：そこにタンクがあるか確認できないが、外界と影響のないところをもっていくという前提で、候補の一つとして挙げられている。

Q：結構容量あるみたいだが、今後他のトレンチの水移すことはあるのか。

A：ありうらと思うが、今回まず1m下げ、安心感得ることを優先。1～3号のたまり水を下げることが今の優先状況。

Q：(毎日新聞) 昨日の原子力安全委員会の会見で、城谷委員が、压力容器2、3号機損傷の可能性があると言っていた。計器類見ると大気圧とほとんど同じ。計器類がおかしいのか、密閉性が失われているのか。仮に密閉性が失われているとすると、水漏れの懸念があるのか。

A：計器類必ずしも信用できないと思っている。燃料が一時毀損いや損傷した水から出て、ヨウ素が出た。压力容器が割れているあるいは穴があいているというデータはないが、弁制御棒を出し入れする穴とか配管とかそういったところが温度圧力の変化でだいぶ弱くなって、格納容器に漏れる可能性は十分あり得る。これ以上压力容器のダメージを出さないようにする必要はあるが、密閉性多少失われているというのはすでにあったこと。

Q：水漏れの懸念は。

A：原子力安全委員会では燃料に触れた水が出てきていると言っているが、一方で冷やさないといけない。たまり水抜くことできるだけ急ぐ。

Q：压力容器の損傷により水漏れが拡大している懸念があるということでのよいのか。

A：拡大しているということはどうかと思う。2号機のサプレッションプール

に穴があいている可能性はある爆発音があったから。水が増えている原因としてはあり得るが確定できない。

Q：(朝日新聞) 現場作業環境劣悪ということについて、東電に改善を要請したという趣旨の発言海江田大臣からあったが、具体的にどう改善したのか。

A：今ははっきり分からないが、後方支援しっかりしろということ確認する。

Q：(日刊工業新聞) トレンチ水は海水ということでよいか。

A：そのとおり。

Q：津波で大量の水が入ったということか。

A：その可能性ある。

Q：飛散防止策明日から図の右側の箇所着手するというのでよいか。

A：そのとおり。

Q：水性の塗膜剤を散布するのか。

A：そのとおり。

Q：本件は、飛散防止か海への流入防止か。

A：私は両方と考える。流れ出たもの、爆発で飛散したものを、これを抑えればという考え。ただ、明日はまず実験という段階。

Q：エリアの一部で行う。

A：エリア全体で行う。

先ほどの質問だが、通常運転時の水は10の2乗ベクレル/cm³オーダーなので、トレンチ内の水1桁2桁ほど低い。対応については核種の分析踏まえ検討したい。

Q：(朝日新聞) 皮膜防止剤の詳細、どれくらい撒くのか等教えてほしい。

A：今手持ちの資料によると2000lと聞いている。散布後1日程度の養生期間が必要だとのこと。

Q：1号機放水口近くで3000倍出たことの対策として考えたのか。

A：それも一つの原因かもしれないが、既に出た放射性物質の飛散防止対策はいずれにせよ必要なので、特にどれということではなく全体現象見て考えている。

Q：トレンチの水について水位変動放射線変動変化ないか。

A：有意な変動ない。

Q：トレンチのイメージを具体化するための映像等ないか。

A：検討する。

Q：(共同通信) 建屋の破壊を覆うというアイデアないのか。

A：特にはないが、全体を覆うということか。将来検討があってもよいが現在具体的な検討はない。